

府中市史編さんだより

第2号 平成28年(2016年)11月1日



ふちゅう温故知新①

分倍河原駅

分倍河原に鉄道がやってきたのは、今から約90年前のことでした。大正14年、玉南電気鉄道の「屋敷分駅」として開業したのが最初です。かつてはこのあたりが「屋敷分村」と呼ばれていたところからきています。駅の位置も今と違って旧甲州街道沿いにありました。玉南電気鉄道は大正15年に京王電気軌道に合併され、今の京王線となっていきます。

昭和3年、南武鉄道(現JR南武線)の駅が現在地へ「屋敷分駅」として開業すると、京王線の駅も昭和4年に接続のために移転し、駅名も「分倍河原駅」に改称されました。ハケ上に京王線、ハケ下に南武線という構造は当時から今にいたるまで変わっていません。

現在は近隣の工場や事業所、学校などへの通勤・通学、乗り継ぎなどに利用されており、府中市内では一番の利用者数を誇る駅となっています(平成27年度の1日平均では、京王線91,900人<乗降者数>、JR40,036人<乗車数>)。朝のラッシュ時の混雑緩和のため、南武線には平日7時30分～8時45分の間、臨時出口専用改札(定期専用)が設けられています。

駅前の北口は商店街がにぎわいを見せ、整備された南口のロータリーは分倍河原の合戦で戦った新田義貞の像が行きかう人々を見守っています。さらに、近年はマンガ・アニメ・映画で人気の『ちはやふる』に登場する場所としても、有名なスポットとなっています。



昭和34年頃の分倍河原駅(『写真集 むかしの府中 明治～昭和20年代』より)



現在の分倍河原駅

「地域の歴史を将来につなげる市史編さんを」

近世専門部会長・東京外国語大学大学院教授
吉田ゆり子 先生

府中市制 60 周年を機に着手した市史編さん事業。東京外国語大学大学院教授・吉田ゆり子先生には、平成 26 年度に市史編さん事業の計画に着手した当初から関わっていただき、現在も府中市市史編さん審議会の副会長として、継続してご尽力をいただいています。専門分野が日本近世史ということもあり、編さんでは近世専門部会においても中心的な役割を担っていただいています。今回、府中市史編さん事業をどのように進めていくべきか、先生の考えと思いを伺いました。

地域の歴史を意識できる市史を目指して

事務局 先生はこれまで様々な自治体史の編さん事業に携わってこられました。新しい府中市史については、どのような市史として編さんしていくべきでしょうか。

吉田 市史を読むことで市民の方に府中市の歴史を理解してもらい、自分がどのような地域に住んでいるのか、日々の暮らしのなかで気に留めてもらえるような市史にしたいと思います。例えば、道ばたにあるものにどういう意味があるのかとか、地名や道筋はどのような歴史があったのか、東京近郊で今は東京 23 区との関係が日々意識されている府中が、歴史的には日本のなかでどのような位置と役割を果たしていたのか、心の片隅にでも意識していただけるような市史を目指したいと思います。

事務局 市史編さん事業にあたって、府中市に期待することはどのようなことでしょうか。

吉田 これまでの自治体史編さんの経験から、市史が作られる経過の部分にこそ重要な意味があると思います。市史編さんは、多大な経費と労力をかけて行う一大事業であり、市民の方のご協力とご期待を受けて進められる事業です。そのため、市史を作る過程で集めた史資料を将来にわたって市の歴史を検証していくものとして未来に継承することが大変重要と考えます。

府中市に期待することは、市史ができあがった段階で事業を終わるのではなく、収集した史

資料を保存・公開して活用するシステムづくりをきちんとしていただくことです。地域によっては文書館という形で継承していく自治体もありますし、そのまま博物館機能に入れ込んでしまうところもありますが、やはり博物館と文書だけを扱う機関は別の機能ですので、市史編さん事業で得られた結果が将来的に十分活用されるような見通しをもって取り組んでいただきたいと思います。市史編さんのなかでは、市史刊行に必要な部分だけを収集するのではなく、将来に伝えることを考慮した史料調査や聞き取り調査を進めていただきたいと思います。

江戸時代の府中は都市・江戸との関係性がおもしろい

事務局 先生はご専門が日本近世史ですが、江戸時代の府中の歴史のおもしろさはどんなところにありますか。

吉田 江戸時代ならば府中宿ですね。中世に鎌倉と結んだ南北の道に対して、近世の甲州街道の整備によって宿場ができて、徳川家康との関係で歴史的な遺産がのこっているという点が、やはりおもしろいと思います。

現在の府中は、東京の近郊都市になっていますが、江戸時代には江戸に対して府中が担った役割があって、江戸近郊農村としての人々の生活のしかたに特徴があると思います。都市に流れ込むのではなく、江戸と行き来しながら、江戸に留学する子供や江戸の旗本屋敷へ女中奉公に行くような農家の女性たちが生まれていました。

人だけではなく物の流れもあって、下肥や米ぬかを畑の肥料のために江戸から仕入れてきて、府中の畑でできた野菜が江戸に出荷されていました。多摩川は、奥多摩から運ばれる炭・槇（まき）が江戸に入る中継地点として利用されていて、その利用をめぐる事件や争いが起こっています。府中と江戸との関係が常に見えるという点でおもしろいと思います。

家や地域の歴史を語る古文書の調査

事務局 先生には近世部会の古文書調査にもご協力いただいています。現在の調査状況について教えてください。

吉田 現在の府中市史の体制に感謝しております。各分野に若手の研究者を専門員という形でスタッフとして活用してくださっているので、他の自治体と比べても進行状況が良いと思います。また、博物館とも緊密な協力体制を組んでくださっているので、今までの市内の調査状況も踏まえた調査が進んでいます。

近世部会の調査状況は、市内の個人所蔵文書の悉皆調査を進めているところです。初めて行った四谷地域の調査では、お蔵に入っていた古文書など、これまでの史料リストに記載されていない古文書が出てきて、新しい発見がいろいろありました。また、寺社の史料調査も、現在史料の所在を確認する作業を進めています。

事務局 古文書とは、どのような点で大切なのでしょうか。

吉田 古文書は、昔の人々が書き残したもので、当時の歴史が具体的に書き記されています。現代の私たちが当時のことを語るときには、推測や後世の編さん物などをもとにして語るのではなく、古文書から当時の具体的な姿を読み取って語る事が大切です。

このように古文書というのは重要なものなのですが、文字が判読しづらいということもあって、価値が知られないまま廃棄されてしまうことがあります。けれども、どんな小さな一枚の紙片であっても、そこから家の歴史を明らかにすることができる重要な史料となるのです。

事務局 一つ一つの古文書が家や地域の歴史を語る大切なものなのですね。市民の皆様が古文書などの史資料をご所蔵でしたら、ぜひ市史編さん室にご連絡いただきたいと思います。

地域の大学との連携事業

事務局 府中市史編さん事業では、東京外国語大学との連携事業を行っています。連携事業の取り組みの内容について伺います。

吉田 現在進めている大学連携事業の取り組みには3つあります。1つには、東京外国語大学の教員が、府中市史の委員として委嘱されています。教員としても地域のなかの大学を考える非常に良い機会を与えられたと思います。2つ

めは、古文書調査や行政文書整理などの受託事業で、東京外国語大学の教員や大学文書館が連携させていただいています。

3つめは、東京外国語大学の授業のなかで、府中市史に関係する先生方・府中市の職員の方に、府中の歴史に関するサポート協力をしていただいています。

事務局 府中市史編さんと大学の連携によって、どのような効果が期待できますか。

吉田 まずは、府中市史に委員として参加する教員が、大学がある府中市を歴史的な経緯から見る意識を持てることだと思います。2つめは、大学文書館が府中市の公文書館と連携することで、新しい情報発信の仕方や整理の仕方を協働のかたちで進めています。これは非常に新しい取り組みではないかと思います。3つめの大学での授業に関しては、昨年実施して大きな成果を得ました。「日本の文化遺産」という科目で、日本の文化財や歴史遺産を知ることが目的とした授業です。世界のなかで日本を見るためには、日本自身を知らなければなりません。学生たちにとって府中がその糸口の一つになると思います。

昨年度の授業のなかで府中市内の巡見を行いました。担当職員の方の「どんな地域にも歴史がある」という言葉に感銘を受けた学生が多くいて印象的でした。府中がいいなということだけではなく、どこの地域も歴史的なことの積み重ねで今日があるんだということ意識する機会になったようです。府中を見ることで、地域を見る目を養うことができたと思います。



吉田ゆり子 先生

東京外国語大学に在籍する多くの留学生にとっても日本の歴史的な遺産を知る機会を得て非常に良かったと思います。

市史編さん事業への市民参加に期待

事務局 今後の市史編さん事業のなかで先生が課題と考えていることを教えてください。

吉田 先ほどお話したように、府中市史の編さん事業は将来を見通して実施していただきたいと思っているので、そういう意味でも地域の歴史を将来につないでいく人を生み出していかなくてはならないと思います。

市史編さん事業のなかでも、市民の方たちや府中市内に来ている大学生に事業に参加してもらう機会をもうけていただきたいと思います。調査や発掘に参加してもらうとか、講演会に来てもらうとかさまざまな市民参加を編さん事業のなかで積極的に組み込む必要があると思います。

もう一つ、府中市へのお願いになりますが、市史編さん事業は本を出版するだけにとどまらず、ぜひ成果をまちづくりに活用していただきたいと思います。

現在の府中は、ベッドタウン都市として駅周辺の府中宿を中心としたエリアの開発がめざましいですが、市史編さん事業の過程で新しくわ

かったこと、あるいは従来からわかっていることを活用して、豊かな歴史遺産を活用したまちづくりを考えていただきたいと思います。歴史遺産といっても、国府跡など文化財指定を受けたものだけでなく、これまで府中で暮らしてきた人々の生活のこゝろや自然に対する向き合い方なども地域の特徴として取り上げてほしいと思います。

事務局 市史編さんで得た成果を将来に継承していくことが大切ですね。

最後に、11月27日に開催する講座・展示会について、内容を教えてください。

吉田 古文書調査の成果を市民に紹介するため、「史料でみる近世府中の歴史～四谷村と多摩川」と題する講座を開催し、調査の状況をお伝えします。地域の歴史というものが身近にあるんだということを感じていただく機会にしたいと考えています。そして、そういう目であらためてお家の状況や周囲を確認していただいて、市民の方が古文書を発見して私たちの方に情報を提供していただく、そういう循環が生まれることを期待しています。

事務局 同日開催の展示会では、実際の調査で見つかった古文書も紹介します。是非多くの方にご来場、ご参加いただければと思います。本日はありがとうございました。

催し物のご案内

講座・パネル展示「史料でみる近世府中の歴史～四谷村と多摩川～」

開催日：平成28年11月27日（日）

場所：スクエア21・府中市女性センター（京王線中河原駅徒歩1分）

【講座】

■**時間** 午後1時15分から午後3時半まで

■**内容** 府中市内で行っている古文書調査の方法をご紹介します。調査で見つかった江戸時代の古文書からわかる四谷村の歴史についてお話しします。

■**講師** 吉田ゆり子氏（東京外国語大学大学院教授）、小松愛子氏（東京大学埋蔵文化財調査室）、後藤雅知氏（立教大学教授）、山崎圭氏（中央大学教授）

■**定員・申込み** 先着50名。講座のお申込みは、前日までに電話で市史編さん担当（042-335-4376）へ。

【パネル展示】「府中市史編さん事業と古文書調査」

■**時間** 午後1時半から午後5時まで

■**内容** 府中市史編さん事業や古文書調査についてパネルでご紹介します。専門員による資料相談ブースにて資料情報を受け付けます。

前号以降の、専門部会の活動について紹介します。

原始・古代専門部会

原始・古代部会では、文献と考古の2つの分野会を設け作業を進めています。資料編作成に向け、文献分野会では「武蔵」や「武蔵国司」に関わる史料の採録を新たに行っています。史料には、正史だけでなく、日記類や文学作品、出土文字資料なども含まれます。考古分野会では、現在市内で見ついている竪穴建物跡を中心とした遺構の時期を明確にする作業と、市内の全発掘調査地点とそこで見つかった遺構の全てを確認する作業を進めています。



出土文字資料は赤外線写真により判読します
(原始・古代)

中世専門部会

28年度に専門部会を3回開催しました。専門研究者により府中市に関わる文献史料が広く収集されつつあります。

また昨年度より引き続き、市内のお寺にご協力いただき、安養寺と善明寺の調査を実施しています。安養寺では昔話「たぬきのお坊さん」の元である同寺伝来「狸聖教」を調査しました。

善明寺では「金仏さま」として人々に親しまれている鉄造阿弥陀如来坐像を調査しました。両寺の調査を通じて、府中市にとどまらない武蔵国全体の歴史が見えてきました。



寺院調査の様子(中世)

さらに9月に入り、福生市役所資料室・五日市郷土館のご協力を頂き、あきる野市大悲願寺の調査を実施しました。府中から離れている西多摩のお寺ですが、市内寺院との関係が深く、江戸時代初期の住職である海誓上人は府中出身です。多摩地域・関東地域に広がる寺院ネットワークに注目することで、まだまだ府中の新たな一面が見えてくることでしょう。

近世専門部会

江戸時代の人びとが書いた日記・手紙・証文などの古文書と呼ばれる史料を調査していま



保管されていた状態の古文書(近世)



古文書調査の様子
最初に史料の現状を確認し記録します（近世）

す。これまで知られていなかった四谷地区の古文書の発見など、調査が進んでいます。江戸時代の古文書は、一か所でたくさんの点数が見つかることもあるので、古文書の目録（リスト）作りをしながら整理しています。

調査で見つかった古文書は、ふるさと府中歴史館1階の展示室で実際にご覧いただけます（不定期で展示替え）。

また、市内の寺社の古文書調査も進めています。本町の安養寺と善明寺にご協力いただき、江戸時代の府中宿の様子がわかる史料を調査しています。28年度は専門部会を4回開催しました。

近・現代専門部会

市内での調査については、昨年度に引き続き、ふるさと府中歴史館に保存されている行政文書の調査を行っております。さらに、府中市郷土の森博物館所蔵の家文書の調査にも着手し、主に明治期の資料について閲覧・撮影を行いました。また、図書館に所蔵されている府中関係の



ふるさと府中歴史館
所蔵資料調査風景（近・現代）

書籍や資料についても調査を行いました。

市外での調査については、大宅壮一文庫において総合雑誌に掲載された府中関係記事、市民アーカイブ多摩において市民団体などが発行している機関誌などの調査を行いました。

自然専門部会

府中市立小学校の百葉箱等を活用して、市内網羅的に30カ所近くで温湿度計測をしています。温湿度の記録には同じ測器を使い、各地点で10分毎に同時記録しているため、市内における環境の違いと変化を詳らかにすることができます。



百葉箱に温湿度計を設置しています（自然）



百葉箱がない地点にはこれを設置しました（自然）

民俗専門部会

昨年度から引き続きライフヒストリー調査を行っています。その他、大國魂神社のくらやみ祭や市内各所で行なわれる様々な行事・イベントの現場にうがかい、写真撮影や「聞き書き」をしています。秋季祭礼を調査した際には市史

